つなげたい想い　咲かせたい笑顔

にしむろ 真希 通信 Vol.1

1、子供たちの暮らしの環境づくり

・浅川沿いに子供たちが遊べる居場所づくりを

・多様な教育（幼児教育、義務教育、高校以降の教育機関）個性ある多様な教育機関を八王子に増やすことで、子育て世代にとって魅力のある近郊都市へ

・ワンオペ教育と高齢者の孤独問題を、交流拠点をつくることでアプローチをしていき、手を取り合う社会へ

・貧困問題のセーフティーネット構築 “頼れる場所づくり”
SOS を出しやすい＆気づいて手を差し伸べ合う地域づくり

2、八王子を世界に誇れる街に

・織物文化、地域産業を世界に発信！商店街をブランド化し、来たるべき AI 社会に「個」のちからで新たな雇用の創出

・地域と地域を結び、高尾山周辺から八王子駅前の周辺を繋ぐ新しい観光動線を

3、すべての人により暮らしやすい選択肢を

・共働き、専業主婦、夫婦二人暮らし、独身の方、お年寄りの方など、それぞれの暮らしを応援できる仕組みづくり

・八王子に新たに住み始めた人たちとの地域連携の構築

にしむろ 真希 《市政にチャレンジ》 活動中！

八王子駅の北口駅前にて朝の演説中！

手を振って頂けると、とても嬉しいです。

衆議院議員のはぎうだ 光一さんが応援に来てくださいました。

八日町の甲州街道沿いに事務所を開設しました。夢美術館の斜向かいです。

つなげたい想い　咲かせたい笑顔

にしむろ 真希 通信 Vol. 1

2018年冬、八王子で成人式の当日に着物レンタル業者がいなくなるという事件がありました。
皆さんご存知の「はれのひ事件」です。その時大人たちに裏切られたと感じた20歳の若者に「大人ってこんな力もあるんだってことを見せてあげたい。涙を拭いてもう一度笑ってほしい」と新たに成人式をプレゼントする企画を立ち上げたのが彼女、『にしむろ真希』です。たった１ヶ月で着物のレンタルの手配からメイク・着付けボランティアの募集・会場をおさえるところまで周りのボランティアと協力し合って成し遂げました。
その時は市政にチャレンジすることになるとは思ってもいなかったと言います。
「決して人前に出るのは得意ではない。でも私が動くことで誰かが幸せになるのなら。誰かの涙を拭えるのなら…」
そう言ってそんな時に見せる『にしむろ真希の行動力』は目を見張るものがあります。
「市政に携わることでいろいろな方々が幸せになるのであれば、やらせてください!」とその純粋すぎるほどの熱意に今、たくさんの人が心を打たれて「我々もやれることをもっと見つけよう。八王子が暮らしやすい街になるためにどんな選択肢があるのか考えていこう。その旗振り役を真希ちゃんお願い!」と支援の輪が徐々に広がっています。

後援会会長　長谷部　好昭

後援会のご入会をお願い致します!

にしむろ真希後援会事務所　八王子市八日町2-16
TEL:042-628-7071　FAX:042-628-7072

プロフィール

生まれも育ちも八王子
生粋の八王子っ子

- 昭和５６年１０月１４日
  八王子市北野町天龍寺に生まれる。
- 八王子実践幼稚園卒業。
- 明星小学校から明星高校進学。
- 東京モード学園デザイン学科４年制卒業。
- 京都　青野株式会社企画部入社。
  子供服のデザイナーとして２年半在籍。
- 京都　岩田呉服店入社。
- ２５歳で結婚、八王子「きものの西室」に嫁ぐ。
- 東京造形大学の春日ゼミとプロジェクトを立ち上げ、地域のお年寄りと連携をして遊べるスペース『おもちゃカフェ dattochi(ダットッチ)』を明神町にオープンさせる。キッズデザイン賞受賞。
- 親子で通える着付け教室・茶道教室・書道教室を運営。

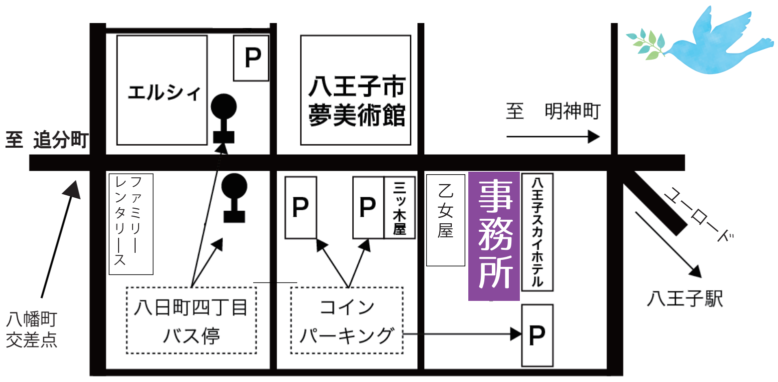
血液型：A 型
趣　味：川遊び．スキー．家族旅行．映画鑑賞
家　族：夫、子供４人

- ファミリーとまちを繋ぐイベント『ファミリーフェス in 八王子みんなのキャンバス 』実行委員長(1～5回)
- 『八王子成人式プレゼントプロジェクト』実行委員長

上記２つのイベントを主宰し、この経験を経て「市政に挑戦しよう」と決意致しました!!
ただ今、自民党八王子総支部女性活躍政策委員として活動中。

公式 HP
インスタグラム
ID 検索「aoo6073m」
Facebook
ツイッター

後援会事務所地図



にしむろ真希のミッション

すべての人の『選択肢』を広げ自分にあった生き方を見つけられる人を増やすことです

男の子３人　女の子１人　４児の母です!!

私はお寺の子として産まれ、八王子の商店街にある呉服屋『着物のにしむろ』に嫁ぎました。商店街の温かさに触れ、また呉服屋ということもあり日本文化の素晴らしさや奥深さを知ることができました。その後なかなか子供に恵まれず、4年目にやっと授かりましたが、母親が育児をしながら「働くこと」の難しさを体感しました。
これからを生きる子供達には、自分なりの夢や目標を持って目的地を目指してほしいと思います。そのために必要な体験やきっかけを作り、選択肢を増やすことが私たち大人にできることかもしれません。大きな白いキャンバスにたくさんの色を使って、自由に描いてもらいたいですね、子供達には…。

<にしむろ真希・談>